【事業実績】

・修復した里浜貝塚出土資料（縄文土器）の公開

・野蒜築港見学会開催（2019.11.10 参加者：30 名）

・座談会「明治三大築港のいま、そしてこれから」開催（2019.12.8 参加者：62 名）

三国港、三角港における築港事業と比較することで、野蒜築港の壮大な事業の理解が進んだ。その上で、「幻の港」となった野蒜築港の遺構の保存と豊富な資料の活用を図る必要性と、築港資料室の再興を望む声が多く聞かれた。また、野蒜築港の活用プランや「三国・三角との交流を継続・発展させたい」といった積極的な声も聞かれ、野蒜築港の価値と魅力を再認識し、保存・活用への機運を高める場となった。

・講演会「宮戸の薬師堂」開催（2020.2.8 参加者：95 名）

大正４年に県営松島公園の整備の一環として建立された「大高森薬師堂」だが、松島四大観の一つ「大高森」への散策ルート上にあるにもかかわらず、その由緒や歴史については地元でもあまり知られてこなかった。建立から 100 年を経て行われた改修工事の完了を期に、建立の意図や建築物としての価値、またその背景にある平安時代から続く東北地方の薬師信仰など、歴史的意義を理解するとともに、新たな観光資源としての価値を見出すことができた。安置されている薬師像や建築物としての特徴などから、建立の意図を知り、活用の方策を探るとともに、宮戸の歴史や伝統を学ぶ機会を求める声が多く聞かれた。

・奥松島文化財ガイドマップ（繁体字版）の作成、配布（3,000 部）

・東名運河解説パンフレット（英語・繁体字・韓国語版）の作成、配布（各 3,000 部）

・史跡里浜貝塚解説書（英語版・簡体中国語・韓国語版）の奥松島縄文村歴史資料館HPへの掲載

（http://www.satohama-jomon.jp/satohama/index,html）

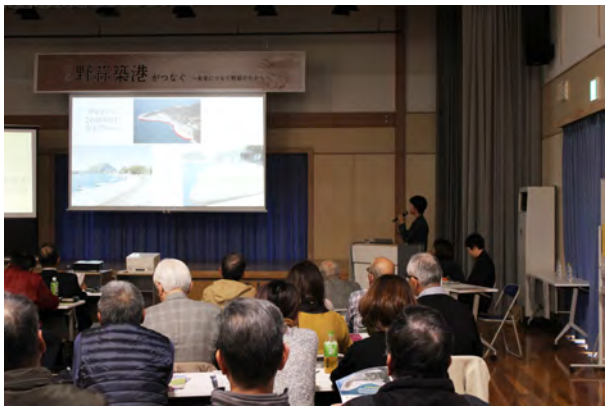
11 月 9 日開催　　野蒜築港フォーラム～東北をつなぐ第２弾～

11 月 10 日開催　野蒜築港見学会

野蒜のたからフォーラム・見学会　2019. 11. 9～10
「野蒜築港フォーラム＆野蒜築港見学会」

松川清子氏（野蒜築港ファンクラブ）

釣部由紀子氏（坂井市みくに龍翔館）



藤川智絵氏（宇城市教育委員会）

座談会の様子

会場から意見を述べる参加者

パネル展示を見る参加者

「幻の港」東松島の野蒜築港

豊富な資料 有効活用を

明治三大築港座談会

次世代への伝承訴え

「幻の港」とされる東松島市の野蒜築港など明治時代を代表する三つの築港の歴史と将来に向けた活用の在り方を探る座談会（未来につなぐ奥松島のたから再生活用実行委主催）が8日、野蒜市民センターで開かれた。野蒜築港は煉瓦（れんが）橋台などが現存するだけだが、座談会では豊富な資料の有効活用を求める声が上がった。実行委会長の志小田美弘教育長は「幅広い閲覧や学習に役立てたい」との認識を示した。

野蒜築港などの将来像を探った座談会

50人超す来場者聴講

「明治三大築港のいま、そしてこれから」と題した座談会には野蒜築港ファンクラブ事務局長の松川清子さん、三国港（福井県坂井市）は坂井市みくに龍翔館学芸員の釣部由紀子さん、三角港（熊本県宇城市）は宇城市教委学芸員の藤川智絵さんが出席。野蒜まちづくり協議会長の菅原節郎さんを進行役、貞山・北上・東名運河研究会代表の後藤光亀さんがコメンテーターを務めた。

三角港は世界遺産、三国港は日本遺産の認定を受け、現在も港湾施設機能を残して高く評価。まちづくりや観光振興に貢献している。

一方の野蒜築港は堆積砂の対策や膨大な建設費が表面化し、二期工事未着手のまま事実上の廃港となった。松川さんは「明治政府の計画に問題はあったが、港湾、土木技術発展の礎になった。港の『形』はないが、次世代に記録を残し伝えたい」と意義を強調した。

野蒜築港をかつて視察した釣部さんは「野蒜築港の巨大な事業に驚いた。遺構の保存が大切だ」と述べ、10年前に訪れた藤川さんは「『幻の港』とはいえ大量の資料が残されており、活用策を探るべきだ」と指摘した。

こうした意見に対し、志小田教育長は、資料室といった整備、開設には言及しなかったものの「活用策の話題は出ていないわけではない。重要な資料をきちんと皆さんに見てもらうことは大切だ」と述べた。

座談会に先立ち、松川さんらが3港の話題を提供。会場では50人を超す来場者が熱心に耳を傾けた。

2019年12月10日 石巻かほく

東松島・野蒜築港　福井県・三国港　熊本県・三角港

明治三大築港 活用探る

東松島 現状や課題語り合う

明治政府による近代港湾建設事業「明治三大築港」をテーマにした座談会が8日、東松島市野蒜市民センターであった。同市の野蒜築港と福井県坂井市の三国港、熊本県宇城市の三角港について、学芸員らが港や遺構の現状と課題を語り合った。

明治三大築港について関係者が意見交換した座談会

坂井市の博物館「みくに龍翔館」の釣部由紀子学芸員は「三国港は街歩きの場として定着し、海から構造物を眺めるなど地域で多様な企画が行われている。文化財としての活用が課題だ」と報告した。

宇城市教委の藤川智絵学芸員は「三角西港の世界遺産認定を機に市民ガイドの研修を強化し、案内を有料にした」と説明した。

野蒜築港ファンクラブ運営の資料室が東日本大震災で被災し、資料は無事だったが建物が解体されたことに触れ「野蒜には貴重な文書資料がある。ワークショップや展示で活用を」と呼び掛けた。

同ファンクラブの松川清子事務局長は1885年の台風被害で建設が頓挫し、遺構も東日本大震災で被害を受けた野蒜築港の歴史を紹介。「失敗も含め近代化の礎になった野蒜築港を地域の視点で学ぶ意義は大きい。資料室再開を目指し歴史を伝えたい」と誓った。

座談会には市民ら約50人が参加した。

2019年12月20日　河北新報

村報
縄文村
jomon village
Dec 2019
Vol.61
発行

１９年１２月現在
村びと数５２１人
世帯数１７３世帯

ホームページ
facebook
instagram

いよいよ始動！ 縄文の丸木舟づくり！

長年、縄文村が温めてきた「丸木舟プロジェクト」が、11 月 2 日ついに始動しました。
開館 30 周年を迎える 2022 年の完成を目指して、縄文の舟作りに挑戦します。

「丸木舟」は、1本の丸太をくり抜いて作る舟。全国の縄文時代の遺跡から約170艘が見つかっています。記念すべき第1回目は、石斧の達人・磯部保衛氏（新潟県村上市在住）をお招きし、その使い方から学びました。

この日集まったのは、13名の皆さん。目の前に置かれた長さ7mのモミの木の大きさにびっくり！「本当に出来るのかな…」と不安な様子です。館長から丸木舟の歴史を、磯部先生から石斧の持ち方や振り方を教わりいざ、実践です！

人が乗る部分をくり抜くには、丸太の半分を削らなければなりません。まずは、木にV字の溝を入れる作業から行います。勢いよく石斧を振り下ろしますが、あまりの硬さに腕が痺れる皆さん。徐々に木が削れ、木クズが四方に舞い始めると、コツを覚えたようで、夢中で石斧を振り下ろします！最初は戸惑っていたお子さんも石斧を振る姿が様になっています。3時間の作業の末、これからの取っ掛りとなる溝15カ所が出来ました。

翌日に開催した「奥松島縄文村まつり」でも丸木舟コーナーを設け、のべ120名が参加。「石斧って意外に丈夫！」「縄文人って苦労してるね」「だんだん削れていくのが楽しい！」とご好評いただきました。

来年度も、月1回の丸木舟作りを開催するほか、おまつり等で登場予定です。村びとの皆さんもぜひ、石斧を一振りしてみませんか？一緒に完成を目指しましょう！

11月3日文化の日
奥松島 縄文村まつり開催！

毎年恒例の秋の一大イベント「奥松島縄文村まつり」を 11 月 3 日文化の日に開催しました。縄文体験や料理のお振る舞い、縄文カキ剥き競争など、お馴染みのメニューのほか、今年は「丸木舟作り」(上記参照)と「秋の大高森トレッキングツアー」が初登場♪800 人以上の方が来場し、おまつりを楽しみました。

縄文写真館

さかなつりゲーム

秋の大高森トレッキングツアー

Special Thanks！

会場では多くの村びとさんの姿が見られ、うれしく思いました。
さらに「おまつりスタッフ」として活躍してくれた村びとさんも！写真館や魚釣りゲームのアシスタント、縄文体験のレクチャーなど…本当にたくさんお手伝いいただきました。
ありがとうございました！！！

縄文カキ剥き競争

座談会、開催しました！

「明治三大築港のいま、そしてこれから」

2019.12.8(日)

野蒜築港ファンクラブ **松川　清子氏**
坂井市みくに龍翔館 **釣部　由紀子氏**
宇城市教育委員会 **藤川　智絵氏**

明治三大築港とされる宮城県野蒜築港、福井県三国港、熊本県三角港。それぞれの土木遺産について、三国港・三角港から講師をお招きし語り合う、座談会「明治三大築港のいま、そしてこれから」を開催しました。まず３名の講師から、それぞれの港の今に至るまでの歴史、現状についてお話がありました。

野蒜築港は、日本で初めて、西洋に倣った本格的な貿易港を造ろうと計画されました。しかし、立地や技術・財政的な悪条件が重なり、工事は中途で放棄されています。突堤や煉瓦橋台等が文化財として残されていましたが、震災で被災し、築港資料室は今なお再建の目途が立たない現状にあります。

同年に着工した福井県三国港は、古来より物流・経済の重要な拠点でした。九頭竜川河口に土砂が堆積して大型船が入ってこれない状況を憂慮して、地元の豪商６人が発起人となり事業が始まりました。風浪による被害やコレラ流行など苦難を乗り越え、竣工にこぎつけました。現在でも港として機能し、日本遺産にも認定されています。

西南戦争からの復興を目指して、明治１７年に着工したのが、熊本県三角港。後の産業革命の際に、石炭輸送の中継地として繁栄しました。平成２７年に世界遺産に登録され、年間２３万人の観光客が訪れているそうです。

座談会後半は、三国港・三角港の事例を参考に、今後どのように野蒜築港を護り活用していくかについて考える時間となりました。

会場からは「野蒜はそんなにすごいのか」「三国港・三角港との交流を継続・発展させたい」といった声が聞かれ、野蒜築港の魅力を再認識し、保存・活用への機運を高める場となったようです。中でも、築港資料室の再建を望む声は大変多く、今後の展開に期待が寄せられています。

講演会情報

講演会「古代牡鹿をおさめた人々」

赤井遺跡と矢本横穴墓群の約30年にわたる発掘調査の結果、古代牡鹿郡の役所の跡が明らかになりました。さらに上総地方（現在の千葉県）から移住し、中央貴族まで上り詰めた東北最大の豪族・道嶋氏との関わりも明らかになってきました。古代東北地方の歴史を解き明かす鍵となる重要な遺跡です。
現在、東松島市では郷土の誇るべき文化財を保存し、活用していくため、国の史跡指定を目指しています。
今回の講演会では、赤井遺跡と矢本横穴墓群の発掘成果を知っていただくとともに、両遺跡から見つかった様々な遺物や人骨などをとおして、古代牡鹿郡（石巻地域）の人々に迫ります。

日時：2020 年 1 月 13 日（月・祝）13:00 ～ 16:00
会場：矢本西市民センター（入場無料）
講師：村田　晃一氏（多賀城跡調査研究所　上席主任研究員）
奈良　貴史氏（新潟医療福祉大学　教授）
尾形　祐之　（東松島市教育委員会　主任学芸員）

講演会「宮戸の薬師堂」

松島湾地域には多くの薬師堂があります。ここ宮戸島にも２つの薬師堂があります。１つは伊達正宗公が建立したと伝わる「薬師堂」、そしてもう１つが大正４年に当時の県令（知事）森正隆氏が建てたとされる「大高森薬師堂」です。いずれも薬師如来本尊が安置されていますが、大高森薬師堂は寺院ではありません。松島の観光政策の一環として建立されたものです。先日改修工事が終わりましたが、大高森の観光整備が、なぜ病気平癒を願う薬師如来のお堂だったのか？
今回の講演会では、大高森薬師堂の建築物としての価値と、そこから見える建立の意図、そしてそもそもなぜ薬師如来なのか、松島湾の薬師信仰の歴史をとおして探ります。

日時：2020 年 2 月 8 日（土）13:00 ～ 16:00
会場：奥松島縄文村歴史資料館（入場無料）
講師：七海　雅人氏（東北学院大学　教授）
関口　重樹氏（宮城県教育庁文化財課　保存活用班長）

年の瀬のご挨拶

今年も縄文村から村びとの皆様へ感謝の気持ちを込めて、お歳暮をお送りします。
今年はカレンダーです。しかし、ただのカレンダーではつまらない！というわけで、竪穴住居風（？）の「永久カレンダー」になりました。
工作を楽しむこと１０分。皆様のご家庭にも竪穴住居が建ちます。皆様の生活に末永く寄り添えたら幸いです。中に土器のミニチュアを置いたり、冬には雪化粧してみたり･･･。アレンジを楽しんでみるのもよいかもしれません。思い思いのやり方で、縄文ライフを謳歌してくださいね♪

＊作り方＊
①パーツ毎に切り取ります。
②のりしろ同士を貼り付けます。
③大きなパーツから順に重ね、天辺にげんちゃんを乗せます。
④完成！

カレンダー完成図→

編集後記

３号続けて増刊号でお送りしてきた村報。今回は、久しぶりに通常版でのお届けです。お歳暮も同封しましたので、まさか物足りないなんてことはないでしょう。（笑）
今年も皆様のおかげで、とても充実した年になりました。来年もイベント目白押しなので、きっとあっという間に過ぎてしまうことと思います。
いつもバタバタと忙しない縄文村スタッフですが、来年もどうぞよろしくお願いします。

年末年始休館・臨時休館のお知らせ

＊１２月２８日（土）～１月４日（土）は、年末年始休館いたします。
＊１２月２７日（金）、１月２１日（火）は館内整理のため、臨時休館とさせていただきます。

開会の挨拶

関口重樹氏（宮城県教育庁文化財課）

七海雅人氏（東北学院大学）

会場の様子

資料を見ながら聞き入る参加者

歩み

1月

東松島

地域の「宝」薬師堂修復

東松島市の宮戸島に100年ほど前に建てられ、東日本大震災の揺れで土台が傾くなどの被害が出た大高森薬師堂が修復された。地域住民らが清掃するなどして大切に管理してきたが、震災後は住民の手が回らず、軒下が腐るなど傷みが目立っていた。津波に襲われた島の復旧に努めてきた住民らは「地元の念願がかなった」と、真新しい薬師堂を喜んでいる。

薬師堂は宮戸島のほぼ中央部にある大高森の中腹にあり、杉木立の中にひっそりと立っている。木造平屋で高さ約5・6㍍、床面積約12平方㍍。瓦は国宝・瑞巌寺（松島町）と同じ奈良県の窯場のものが使われているという。

宮戸島にある奥松島縄文村歴史資料館の菅原弘樹館長によると、薬師堂は大正時代、当時の森正隆知事が松島地域の観光振興を図るために私財を投じて建てられたという。本尊は白木造りの薬師如来像で、県内最古の木造建築とされる高蔵寺阿弥陀堂（角田市）の柱が使われた。

菅原館長は「伊達家が松島湾周辺に薬師堂を建てて信仰したことに由来するのではないか。松島の観光振興の歴史を知る上で重要な施設」と語る。

地元住民らでつくる「奥松島観光ボランティア会」が5年ほど前から、県や市に薬師堂の修繕を再三にわたって要望。県が2018年度から約2300万円をかけて昨年10月末に完成させた。きれいになった薬師堂のPRを兼ね、日本の中世史に詳しい大学教授らによる講演会が2月8日、奥松島縄文村歴史資料館で開かれる。

薬師堂は、トレッキングコース「宮城オルレ」の奥松島コース沿いにある。同会事務局の木島新一さん(69)は「遊歩道を行き交う観光客が休める場所になるように、清掃などをしていきたい」と話している。

（成海隆行）

◇

令和最初の正月は、どう過ごされましたか。今月は東松島市と南三陸町から報告します。

大高森薬師堂の前で「観光施設として建てられた」と説明する菅原弘樹館長（7日、東松島市宮戸で）

2020年1月11日　読売新聞

「薬師堂」歴史 活用探る

東松島・講演会

深み増す宮戸島観光

建立時の目的息づく

「宮戸の薬師堂」講演会が8日、東松島市の奥松島縄文村歴史資料館であり、同市宮戸にある「薬師堂」と昨年修復が完了した「大高森薬師堂」など松島湾地域に点在する薬師堂の歴史的意義や将来に向けた活用策を考えた。

「未来につなぐ奥松島のたから」再生活用実行委員会が主催。県文化財課保存活用班長の関口重樹さんが「大高森薬師堂のたてもの」をテーマに講演した。

大高森薬師堂は大正年間に建立された。その目的について関口さんは「1900（明治33）年に松島が県立公園となり、観光客を誘致するため、美観を整えたり交通の便を良くしたりするのと併せ、行楽施設の整備をした」と解説した。

その上で「大高森に散策道を整備し、さらに薬師堂を建立することで景観美を高めようとした」と語り、観光誘客を視野に建造された経緯を紹介した。

大高森薬師堂は古式にのっとり、簡素で中世の様式で建てられているのが特徴。角田市にある県内最古の阿弥陀堂修復の際に出た古材を譲り受け、本尊の薬師如来像を彫刻したという。

関口さんは「歴史的な価値も高い」と述べ、宮戸島観光に深みを与える観光資源としての活用をアドバイスした。

東北学院大文学部教授の七海雅人さんは、「なぜ、松島湾に薬師堂が多いのか？」をテーマに講演し、松島の雄島が平安時代以降、行者が修行する霊場だったことと、薬師如来信仰が結び付いたとの見方を示した。

大高森薬師堂の特徴を学んだ講演会（上）と、昨年修復が完了した大高森薬師堂

2020年2月11日　石巻かほく

村報
縄文村
jomon village
Feb 2020
Vol.62
発行

２０年　２月現在
村びと数５２８人
世帯数１７５世帯

ホームページ
facebook
instagram

講演会『古代牡鹿をおさめた人々』開催

現在、国の史跡指定を目指している「赤井遺跡」「矢本横穴墓群」について広く知ってもらおうと、1月13日（月）矢本西市民センターで、文化財講演会「古代牡鹿をおさめた人々」を開催。市内外から100名を超す方々にお集まりいただきました。

村田晃一氏

奈良貴史氏

講演では村田晃一氏（多賀城跡調査研究所）が「考古資料からみた古代牡鹿郡の人々」、奈良貴史氏（新潟医療福祉大学）が「人骨からみた古代牡鹿郡の人々」と題し、研究成果をお話いただきました。

村田氏は発掘調査の結果、①古代の歴史書に記述のある「古代牡鹿郡」に関わる役所の跡が、東松島市赤井地区にあったこと、②この役所は、北方に暮らす蝦夷を支配下に置くための軍事施設の機能を併せ持っていたこと③上総地方から移住し、この地方を治めた道嶋氏との二つの遺跡の関わりなどを解説しました。

一方、奈良氏は、矢本横穴墓群を中心に発掘された人骨を詳しく解説。当時の牡鹿地方には関東地方から移住したと見られる人々（弥生系）と、もともとこの地に暮らしていた蝦夷の流れをくむ人々（縄文系）がいたこと、矢本横穴では両方の人々が同じ墓に埋葬されていたことも明らかにしました。会場の皆さんは映像を見ながら興味深く聞き入っていました。

「身近に貴重な歴史的遺産があることに驚きました」「古代の赤井の人々の暮らしぶりがわかり興味深かった」「もっと話を聞く機会がほしい」など、関心が深まったという声が多く聞かれました。

赤井遺跡と矢本横穴墓群は文献史料に記された歴史を考古学的に証明することができる貴重な遺跡です。今後も様々な形で情報を発信していきます。

「赤井官衙遺跡群」パンフレットが出来ました！

赤井遺跡、矢本横穴墓群を紹介するパンフレットが完成。写真やイラストをふんだんに使用しわかりやすく紹介しています。資料館で配布中！

テーマ展
「古代牡鹿をおさめた人々」を開催中です！

「赤井遺跡」「矢本横穴墓群」で発見された刀や装身具、人骨、土器などを展示しています。
【会期】～６月３０日（火）
【会場】２階展示室

松島湾の薬師信仰に迫る！ 講演会『宮戸の薬師堂』開催

昨秋、改修工事が完了した「大高森薬師堂」。その建築物としての価値と建立の意図、松島湾の薬師信仰を探る講演会を2月8日に開催しました。事前の問い合わせが多く急きょ座席数を増やし開場。約100名の皆さんにお集まりいただき、関心の多きに驚きました。

関口重樹氏（宮城県教育庁）は「大高森薬師堂のたてもの」、七海雅人氏（東北学院大学）は「なぜ、松島湾に薬師堂が多いのか？」と題して、講演いただきました。

関口氏は、『松島公園経営報告書』をもとに、大高森薬師堂が明治の終わりから大正の初めにかけて、宮城県によっておこなわれた、松島の観光整備の一環で建てられたこと。そして、角田市高蔵寺（重要文化財）の古木で彫った薬師像を安置するためのものであったことを読み解きました。

建物の特徴としては、①参拝のため向拝や堂内に入るための階段がないこと、②桟瓦の文様が多賀城跡などで出土する軒丸瓦の文様を模していること、③近世的な装飾が施されていないことなど、小規模なお堂にしては古式に則った、しっかりとした造りであることを、江戸時代に建てられた、宮戸の薬師山にある薬師堂（市指定文化財）と比較しながら解説しました。

関口氏は「建立の経緯や意図、建築物としては"特異な建物"だが、景勝地としての景観に配慮し、古代中世の様式を引用・模倣・折衷した復古的な建築を目指したもので、歴史的な価値は高い。地域の文化財として大切にして欲しい」と会場に語りかけました。

「大高森薬師堂は"不思議な建物"といえると思います。」

七海氏は、平安時代から続く東北地方の薬師信仰について、お話いただきました。

如来の信仰は、慈覚大師円仁が天台宗とともに広めたと考えられていて、その足跡が東北地方の各地に残されているのだそうです。多賀国府から松島、石巻地方にかけて、数々の円仁伝承が残され、薬師堂が点在していることが紹介されました。

松島は今は観光地として知られていますが、中世には鎌倉仏教の影響で、「霊場」としてとらえられるようになったこと。中でも雄島は特別な島だったことを、発掘調査の結果をもとに解説されました。

「中世の松島雄島は、あの世とこの世をつなぐ中間点と考えられ、松島以東は浄土へと往生する場を表していたのでは？」と試論を展開されました。

大高森薬師堂は、病気平癒という現世の利益と東方浄土へと往生する願いが込められ建てられたのではないか、という見方が示され、会場は熱心に聞き入っていました。

「円仁伝承＋薬師如来信仰が、松島湾の薬師信仰のキーワードです。」

村役場からのお知らせです。

令和2年度 イベント参加者募集始まります。

お待たせしました。来年度のイベントカレンダーが完成しました！
今年も村びとさんの先行予約をスタートします。

資料館窓口でも申込みできます！

■お申込み方法
TEL:0225-88-3927
FAX:0225-88-3928
E-mail:jomon@city.higashimatsushima.miyagi.jp

■ファンクラブ限定の先行予約です。カレンダーの転載や申込用紙の譲渡はご遠慮ください。
■3月中旬からは村びと・一般問わず、申込み順に受付します。
■村びと以外の方が同伴者としてご参加の場合、村びとご本人様も必ずイベントへご参加ください。（= 先行予約期間に村びと以外の方のみでのお申込みはご遠慮願います）

重要 村民税納入のお願い

年度が変わりますので、村民税（ファンクラブ年会費）の納入をお願いいたします。
「納入状況のお知らせ」を同封していますので、納入状況をご確認ください。

・村民税は、**年度ごと**（4月～3月）に頂いています。
・1世帯につき **500円**です。
・資料館受付にて直接納めていただくか、郵便局で振込用紙を利用して納めていただく方法がございます。

振込用紙について

振込用紙は**石巻圏にお住まいの方、よくイベントにご参加いただいている方には同封していません。**
振込用紙が必要な方は、お手数ですが資料館までご連絡ください。

ヤマザクラ 2011 本プロジェクト「第７回ヤマザクラ植樹祭」

「宮戸島を 2011 本のヤマザクラ咲く島に」という目標のもと活動しているプロジェクトです。現在、島内には 300 本が植樹されています。

日時 3月21日（土）10:00～12:00　(9:30受付開始)
受付 奥松島縄文村歴史資料館
費用 無料／事前申込（0225-88-3927）

こちらも募集中です！

□前日（14:00～）苗畑から苗木の掘り出しや地ならしを行います。
お手伝いいただける方を募集中です。
□植樹祭当日の午後からは、講演会を開催いたします。
詳しくは、隣の「縄文時代に活躍した丸木舟」をご覧ください。
当日お時間がある方は、ぜひご参加ください。

植樹祭へご参加いただける方は資料館までご連絡をお願いします。

「縄文時代に活躍した丸木舟」 3/21(土) 13:00～16:00

会場：奥松島縄文村歴史資料館
（申込不要・入場無料）

昨秋から始動した「丸木舟作り」。縄文人はどんな木材を利用したか、全国の遺跡からどんな丸木舟が出土しているのかを紹介。

■講師■

岡村道雄氏
（当館名誉館長）

鈴木三男氏
（東北大学名誉教授）

▲昨年の縄文村まつりの様子

「縄文シティサミット in ひがしまつしま」

ボランティア募集します！

なんと17年!!

「縄文」で繋がる全国 17 の自治体が集う「第 23 回 縄文シティサミット」が、日本最大の貝塚「里浜貝塚」を誇る東松島市で、10月17、18日に開催されます。ここ数年、各地で "縄文ブーム" が巻き起こり、三内丸山遺跡を中心とした縄文遺跡の世界遺産への推薦も決まりました。サミットでは、加盟都市の PR とともに、縄文を活かしたまちづくりと世界遺産登録に向けた取り組みを、全国に向けて発信します。
サミットではたくさんの方にご来場いただくため、村びとの皆様にボランティアスタッフとしてお手伝いを募集予定です。詳しくは、6月号に掲載いたします。

◆編集後記◆
世の中はオリンピックムードですが、縄文村はオリンピックそっちのけでヤマザクラを植樹したり、シティサミット開催したり、丸木舟作っちゃったりします。今年も縄文村らしくいきます。皆さんついてきてね！

◆人事のお知らせ◆

佐藤隆志さん
（名誉村長 就任）

菅原節郎さん
（村長 就任）

永年「里浜貝塚ファンクラブ」の村長を務めていただいた佐藤さんに、名誉村長に就任していただくことになりました。新しい村長は、村びと第１号の菅原さんにお願いします。
お二人には、今後イベント等でたくさんご活躍いただきたいと思います。
村びとの皆さん、よろしくお願いします！

4年間ありがとうございました！

相澤 琴（展示解説員）

23 歳で仲間入りした私も、おかげさまで 27 歳になりました。アラサー突入を機に、卒業を決断することにしました。
村びとの皆さまには、たくさんかわいがっていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。今後とも縄文村を、よろしくお願いいたします。